

日本語教員

日本語教員とは、日本語を母語としない人に日本語を教える教員のことであり、2019年に「日本語教育の推進に関する法律」(日本語教育推進法)が施行され、2023年6月に「日本語教育機関認定法」が公布された。本学の日本語教員養成課程は、これからますます進む多文化共生社会において、日本語教員になる人だけでなく、学校教育に携わる人や一般企業を目指す人にとっても有益な内容である。多様なニーズを持つ学習者に合わせた日本語教育を実践したり、日常生活で日本語を母語としない人と円滑にコミュニケーションをとったりする際に求められる能力につながるためである。

本学における日本語教員養成課程は、日本語日本文学科に開設されている。詳細は、4月初めに行われる日本語教員ガイダンスで説明するので、必ず出席する。

(1)履修方法

<表1>は、本学の日本語教員養成課程の日本語教育科目の一覧で、5つの区分(1.社会・文化・知識、2.言語と社会、3.言語と心理、4.言語と教育、5.言語)からなる。<表2>は、本学の日本語教育科目が、文化庁が定める必須の教育内容50項目を満たしていることを示す。

本課程の修了証取得を目指す学生は、<表1>の5つの各区分の履修方法に従って所定の単位を修得し、卒業までに合計26単位以上修得しなければならない。この5区分の履修方法に従って履修することで、文化庁が定める必須の教育内容50項目を満たすこととなる。

(2)必須の教育内容との対応

本学の日本語教育科目は、選択必修科目と選択科目からなるが、5区分の履修方法に従って履修することで、必須の教育内容50項目を満たす。

区分1~3は全て選択必修科目であるが、区分内のいずれの科目を履修しても、<表1>の項目を満たす。例えば区分1は「2単位以上修得」する必要があり、区分1の3科目のどの科目を履修したとしても、必須の教育内容50項目の「1 社会・文化・地域」に相当する項目(1)-(7)を満たす。同様に、区分2「言語と社会」では、3科目から4単位以上の履修により項目(8)-(13)を満たす。区分3「言語と心理」では、2科目から2単位以上の履修により項目(14)-(19)を満たす。

一方、区分4、5は選択必修科目の選択肢が多いため、一部の科目を必ず履修する条件がある。これにより、最終的に必須の教育内容50項目(20)-(50)を満たすこととなる。

区分4「言語と教育」では、「日本語教育Ⅱ(日本語指導実践(1))A」「日本語教育Ⅱ(日本語指導実践(1))B」のいずれか2単位を必ず履修することにより、「4.言語と教育」の(20)-(36)を満たす。

区分5「言語」では、日本語教育に必要な内容を扱う4科目(日本語教育Ⅰ(日本語文法論)A、日本語教育Ⅰ(日本語文法論)B、日本語教育Ⅰ(会話データ分析)、日本語教育Ⅰ(対照言語(日英))の中から4単位以上を必ず履修することにより、「5.言語」の(37)-(50)を満たす。

<表1>日本語教育科目

区分 (各区分の必要 修得単位数)	授業科目	単位数		履修方法	備考
		選択 必修	選択		
1. 社会・文化・地域 (2単位以上修得)	日本語教育入門	2		2単位以上 選択必修	
	日本語教育Ⅱ(日本社会と日本語教育)	2			
	日本語教育Ⅱ(多文化教育・バイリンガリズム)	2			
2. 言語と社会 (4単位以上修得)	異文化間コミュニケーションA	2		4単位以上 選択必修	
	異文化間コミュニケーションB	2			
	日本語教育Ⅰ(社会言語学)	2			
3. 言語と心理 (2単位以上修得)	日本語教育Ⅰ(外国語教授法)	2		2単位以上 選択必修	
	日本語教育Ⅰ(第二言語習得論)	2			
4. 言語と教育 (10単位以上修得)	日本語教育Ⅱ(音声と音声指導)	2		「日本語教育Ⅱ (日本語指導実践(1))A」(2単位)または「日本語教育Ⅱ(日本語指導実践(1))B」(2単位)を含め10単位以上選択必修	
	日本語教育Ⅱ(聴解・会話とその指導)	2			
	日本語教育Ⅱ(作文・読解とその指導)	2			
	日本語教育Ⅱ(コースデザインと評価)	2			
	日本語教育Ⅱ(日本語指導実践(1))A	2			左記2科目のいずれか必ず履修
	日本語教育Ⅱ(日本語指導実践(1))B	2			復履修可科目(集中)
	日本語教育Ⅱ(日本語指導実践(2))A	1			復履修可科目(集中)
	日本語教育Ⅱ(日本語指導実践(2))B	1			ポストン秋期15週間参加学生履修科目
5. 言語 (8単位以上修得)	日本語教育Ⅰ(日本語文法論)A	2		「日本語教育Ⅰ (日本語文法論)A」「日本語教育Ⅰ(日本語文法論)B」「日本語教育Ⅰ(会話データ分析)」「日本語教育Ⅱ(対照言語(日英))」の中から4単位以上を含め8単位以上履修	
	日本語教育Ⅰ(日本語文法論)B	2			
	日本語教育Ⅰ(会話データ分析)	2			
	日本語教育Ⅱ(対照言語(日英))	2			
	日本語学Ⅰ(音声と音韻)A		2		
	日本語学Ⅰ(音声と音韻)B		2		
	日本語学Ⅰ(ことばと社会)A		2		
	日本語学Ⅰ(ことばと社会)B		2		
	日本語学Ⅱ(現代の語彙・表記)A		2		日本語日本文学科のみ履修可科目
	日本語学Ⅱ(現代の語彙・表記)B		2		日本語日本文学科のみ履修可科目
	日本語学Ⅱ(世界の中の日本語)A		2		人間文化学部履修可科目
	日本語学Ⅱ(世界の中の日本語)B		2		人間文化学部履修可科目
	言語学A		2		
	言語学B		2		

※各区分1～5からそれぞれ所定の単位を修得し、合計26単位以上修得すること

<表2> 必須の教育内容(必須の50項目)との対応表

区分	授業科目	単位	履修方法	文化庁が定める必須の教育内容(必須の50項目)との対応 ○各区分の必須項目全てを満たす科目	
1. 社会・文化・地域	日本語教育入門	2	2 単位以上 選択必修	○1-7	(1)世界と日本の社会と文化 (2)日本の在留外国人施策 (3)多文化共生 (4)日本語教育史 (5)言語政策 (6)日本語の試験 (7)世界と日本の日本語教育事情
	日本語教育Ⅱ(日本社会と日本語教育)	2			
	日本語教育Ⅱ(多文化教育・バイリンガリズム)	2			
2. 言語と社会	異文化間コミュニケーションA	2	4 単位以上 選択必修	○8-13	(8)社会言語学 (9)言語政策と「ことば」 (10)コミュニケーションストラテジー (11)待遇・敬語表現 (12)言語・非言語行動 (13)多文化・多言語主義
	異文化間コミュニケーションB	2			
	日本語教育Ⅰ(社会言語学)	2			
3. 言語と心理	日本語教育Ⅰ(外国語教授法)	2	2 単位以上 選択必修	○14-19	(14)談話理解 (15)言語学習 (16)習得過程 (17)学習ストラテジー (18)異文化受容・適用 (19)日本語の学習・教育の情緒的側面
	日本語教育Ⅰ(第二言語習得論)	2			
4. 言語と教育	日本語教育Ⅱ(日本語指導実践(1))A	2	左記2科目 のいずれか 必ず履修	○20-36	(20)日本語教師の資質・能力 (21)日本語教育プログラムの理解と実践 (22)教室・言語環境の設定 (23)コースデザイン (24)教授法 (25)教材分析・作成・開発 (26)評価法 (27)授業計画 (28)教育実習 (29)中間言語分析 (30)授業分析・自己点検能力 (31)目的・対象別日本語教育法 (32)異文化間教育 (33)異文化コミュニケーション (34)コミュニケーション教育 (35)日本語教育とICT (36)著作権
	日本語教育Ⅱ(日本語指導実践(1))B	2			
5. 言語	日本語教育Ⅰ(日本語文法論)A	2	左記4科目 から4単位 以上履修	○37-50	(37)一般言語学 (38)対照言語学 (39)日本語教育のための日本語分析 (40)日本語教育のための音韻・音声体系 (41)日本語教育のための文字と表記 (42)日本語教育のための形態・語彙体系 (43)日本語教育のための文法体系 (44)日本語教育のための意味体系 (45)日本語教育のための語用論的規範 (46)受容・理解能力 (47)言語運用能力 (48)社会文化能力 (49)対人関係能力 (50)異文化調整能力
	日本語教育Ⅰ(日本語文法論)B	2			
	日本語教育Ⅰ(会話データ分析)	2			
	日本語教育Ⅱ(対照言語(日英))	2			